教員に求められる心がけと具体的な配慮

倉本　憲一

倉本　本日，お招きをいただきました，平塚の大野中学校で校長をしております倉本でございます。よろしくお願いいたします。

今日の柱なんですけれども，鈴木先生からは「教職を目指す皆さんに対して，教員に求められる心がけと具体的な配慮について話して欲しい」と言われました。私として５本の柱を立てました。まず１点目が教員に求められる資質って何だろうということです。２点目は教員に求められる責任は何だろう。３点目が教員に求められる行動って何だろう。４点目が教員に求められるトラブル対応能力。５点目，最後は私自身のことも振り返って，教員をやり続けるパワー，その源って何だろうか，そんな話をさせていただきたいと思います。

まず１点目の教員に求められる資質ですね。これから皆さんに４つ質問しますので，皆さんの思いを書いていただきたいと思います。皆さんのように教員を目指す方は，小，中，高の時代に自分にとって影響を与えてくれた先生に出会っていることが多いなと思うんです。どうですか？そういう方はいらっしゃる？自分にとって影響を与えた先生がいるよという方，ちょっと手を挙げてください。やっぱりそうですね。では，そんなものはいない。いないけど目指しているという方？ああ，１人。ありがとう。そういう人もいてくれていいと思います。じゃあ，いる方はその先生のことを思い出してください。いない方，自分はどんな教員になりたいと思っているかを書いてください。よろしいですか。そしたらその１番のところに自分が影響を受けた先生はどんな先生だったか，また自分はどんな先生になりたいかをこれから３０秒で簡単に書いてください。

（３０秒）

はい，やめてください。途中でも結構ですので。何かそこに書いてくださったと思いますので，発表していただきたいと思います。途中でもそのまま続けて言っていただければと思います。真ん中の通路のこちらの方。ご自分が書いたことを読んでください。お願いします。

〇〇　授業中にわからない人がいたら友達同士で教え合っていて，自分も教えたいんですけど，生徒間の教え合いを大切にしたり，（省略）。

倉本　ありがとうございます。では後ろの方，お願いします。

〇〇　私は部活の顧問の先生なんですけど，生徒にももちろん厳しいんですけど，自分にも厳しくて，部活とか朝練とか早いんですけど，その時間にもちゃんと来るし，生徒の手本になるような先生でした。

倉本　ありがとうございました。では３人目の方。

〇〇　自分は生徒としてじゃなくて，真っ当な一人の人として見てもらえるような人。

倉本　ありがとうございます。その後ろの方。

○○　生徒目線で接してくれて，でもやっぱり時には悪いことをしたらちゃんとしっかり叱ってくれた先生。

倉本　ありがとうございます。あと３人いらっしゃいますか。

○○　授業と普段の生活のメリハリがあって，やっぱり普段のときに生徒ひとりひとりと同じ目線で話せている先生。

倉本　ありがとうございます。その後ろの方，お願いします。

○○　中学校のときの部活の先生なんですけれども，他の先生とは違って，やさしさとか理解力がすごくあって，要は自分にすごく近い目線で同じように接してくれたので，そこですごく心を開いていろいろ教えてもらったりしました。

倉本　ありがとうございます。後ろの方。

○○　数学の先生なんですけど，ユーモアがあって，授業中の話がとてもおもしろい先生で生徒との距離が近い先生でした。

倉本　ありがとうございます。というように，皆さん，部活であったり，授業であったり，いろんなことの中で，自分の好きな先生，影響を受けた先生を持ってらっしゃる。そうじゃない方も，自分はこんな教員になりたいと思って，いま教職課程を履修していますよね。好きな先生を持っていたり，また自分の目指す教員像があるということは，これから教職を目指す皆さんの中で本当に大切なことだなと思います。

と同時に，もしかしたら皆さん，自分の経験の中で，こんな先生は嫌いだとか，あいつは嫌だったとか，許せないとか，そういう先生もいるかもしれませんね。正直，嫌いだった先生がいる方，手を挙げていただけますか？やっぱりかなりいますね。幸運にも私は嫌いな先生はいなかったという方, ちょっと手を挙げていただけますか？６人ですね。でもかなりの方が嫌いだった先生がいる。

では今度は２番のところを見てください。自分が嫌いだった先生はこんな人です。いない方はこんな先生になりたくないと書いてください。はい，どうぞお願いします。

（３０秒）

ではやめてください。途中でも結構です。ではお隣の列に聞いていいですか。

○○　挨拶をしても「ああ」とかいう感じでしか返してくれないんです。「ごめんね」とか「ありがとう」とかそういうことを言わない。

倉本　「ごめんね」と言わない。はい。ありがとうございます。

○○　黒板にただひたすら書いていて，生徒側から質問とか投げかけるタイミングがなかったという先生。

倉本　一方的に授業を進めてしまう。私にもグサッと来るようなことですが，そうならないようにしますのでよろしくお願いします。

○○　言い方がちょっと難しいんですけども，生徒に好かれようとするのが見え見えで，ご機嫌取りみたいな感じの先生。

倉本　なるほどね。見え見えな感じ。はい。お願いします。

○○　何をしても感謝の言葉を言わない先生。その人が嫌いでした。

倉本　はい，ありがとう。

○○　生徒を叱ったり，怒ったりした後のフォローがなくて言いっぱなしの先生。

倉本　怒りっぱなし。はい，ありがとうございます。どうぞ。

○○　接するときの態度が冷たい先生。挨拶をしても「うん」とかしか言わない。

倉本　はい。

○○　生徒とのコミュニケーションをあまり持たなくて関わろうとしない先生。

倉本　ありがとうございます。いま１列言っていただいたんですけど，わかるなあという気がしますね，それぞれ。皆さんは自分の目指す，自分に影響を与えてくれたり，自分が好きだなと思う先生もいたし,嫌だなあと思う先生もいたわけですね。それでは皆さん,どっちになりたいですか？当然，生徒から，あの先生に会えて良かったな，あの先生に教わって良かったなという先生になりたいですよね。そんなことを思わないでここにいる人は１人もいないと私は思います。でも，もしかしたら皆さんに嫌われた先生も学生のときに皆さんと同じことを思っていたんじゃないでしょうか。教員になるときに，生徒から嫌われたり，あいつ嫌だなと思われたくて教員になる人は誰もいなかったんじゃないでしょうか。でも結果的に，皆さんにとって，この先生はいいな，影響を受けたなという先生と，嫌だったなという先生がいるという事実があるわけです。皆さんひとりひとりの中にも，生徒に影響を与えるいい先生であるという資質があると思うし，逆に生徒から嫌われる資質があるかもしれません。皆さんそれぞれお持ちなんじゃないでしょうか。

３番には，あなた自身を見て，生徒から好かれる，さっき自分がいいと思った先生になれる，その先生とは違ったタイプかもしれませんが，生徒に対していい先生である良い資質，自分の中にある良い資質は何だろうとしっかり向き合って３番に書いてください。そして逆にダメな先生，嫌われる先生になる資質は自分の中にないだろうかと自分を振り返って書き込んでください。これは両方ありますから１分じゃ書けない。２分ぐらいで。

（２分２０秒）

ではやめてください。途中でもかまいません。それではまずあなたが持っているいい資質，良い先生になれる資質について。

○○　やさしいところで，フレンドリーな先生になれるかと。あと理科好きなので，理科好きで楽しい話をして，楽しい授業にしたいと思っているので，そういう素質はあるかなと思います。

倉本　ありがとうございます。どうぞ。

○○　普段，人を嫌いになることがあんまりないので，どんな生徒にも平等に接することができるんじゃないかと思います。

倉本　はい，どうぞ。

○○　自分の性格上ちょっと完璧主義なところがあるので，授業は丁寧に教えることができるんじゃないかと思います。

倉本　はい，どうぞ。

○○　人に対して世話好きなので，勉強についていけない子とかにも一生懸命教えていけるんじゃないかなと思います。

倉本　そうですね。細かなケア。

○○　例えば生徒に言ったことは自分も守るようにしたいというところです。

倉本　私から見ても，例えば大野中学校にはいろんな立場の方を入れて５０名ぐらいのスタッフがいるんです。それぞれみんなカラーが違います。でもみんないいところを持ってるんですよ。皆さんがいま言われたところは本当に教員になったときに生かしてほしい資質だなと思います。自分のそういうところに是非自信を持ってください。そして磨いて伸ばしてほしいなと思います。逆に，

あなたの中にあるダメな先生，嫌われる先生になってしまうかもしれない，そういう危険な資質がありましたら。どうぞ。

○○　自分は面倒なこととか，イラッとしたりしたときにちょっと態度につい出てしまうところがあるので，その部分で生徒と接しているときにイラッときたとき出ちゃうんじゃないかと。

倉本　なるほどね。では後ろの方，どうですか。

○○　私自身，気難しい性格をしておりまして，校則とかルールに多分うるさいことになってしまう。羽目を外してる生徒とかにちょっと厳しくなってしまう部分があると思います。

倉本　はい，どうぞ。

○○　性格的な問題とかじゃないんですけど，目つきが悪くなったり，笑顔が少なかったりすることがあるので，そういうのを生徒に見られると，あの先生，怖いなと思われるかもしれないと思います。

倉本　その後ろの方，いかがでしょうか。

○○　深く考えすぎて，人に対して臆病になったりして，近づきがたいときがあったりするかなと思います。

倉本　人に臆病。はい，ありがとうございます。

○○　私は話が長いとよく言われるので，授業中のことであったり，生徒を叱るときにちょっと話が長くなってしまって，迫力がなくなったりするので，そういったところは直していかないといけないなと思いました。

倉本　なるほどと思いました。大事なことは，自分の長所と自分の短所をちゃんとわかっていることだと私は思います。実は，私は教育実習のときに自分の長所と短所を痛感しました。私は子どもの中にバーンと入っていって，一緒になってワッとやる熱血タイプの教員でした。でした，じゃなくて，いまも熱血校長をやってます。自分としては校長になろうが，教員をやっていようが全然変わらないです。子どもへの接し方，職員への接し方は変わりません。これは私のスタイルだと思ってます。でもそのやり方の欠点を自分は教育実習のときに知りました。担当教官の方からご指摘を受けたことがあります。それは「入り込めば近くは見えるけど，遠くは見えないでしょう？子どもたちの中に入り込む教員は，生徒が３０人いれば，３０人の中のバーンと入り込んだ近くは見えるけれども，周囲を見落とすことがあるよね。君はそれが欠点だ」と言われました。そのことをいつも感じながらずっと教員をやっています。でも自分のカラーは変えてません。変えられないじゃないですか。人間そんなに自分の性格，変えられないでしょう。だから皆さんも自分のカラーを変える必要はない。でも自分の中にある嫌われてしまう先生，ダメな先生と自分が思われるかもしれないところをしっかりわかっていて，そこを自分でコントロールできるようにする。それが大切じゃないですか。

だからいろんな先生がいていいんです。すべての生徒から好かれる先生，まあ理想かもしれませんが，中にはすごくフレンドリーでいいなと思った先生に，さっき言われたように，わざとらしい，俺は嫌だ，何か見え見えだと思う人がいる。あの先生，硬いね，何か近づきにくいね，ちょっと話しづらい。でも授業はすごくしっかり教えてくれるから私は好きという生徒もいるんです。いろんな生徒がいるんだから，いろんな先生がいていいじゃないですか。さっき皆さんが影響を受けた先生，すべての生徒がその先生に影響を受けてたんじゃないかもしれませんね。私にとってはあの先生，でもあの子にとってはこっちの先生，それでいいんじゃないですか。皆さんもそういう先生で

いいんじゃないですか。

でもやっぱり多くの生徒から共通に嫌われる先生がいるというようなことも確かにあります。だから皆さんがそういう先生にはならないでほしいなと思います。そのためにいま言った自分のいいところをしっかりわかって，自分のカラーを生かした先生になってください。それが教員に求められる資質だと思います。

それでは２点目。教員に求められる責任なんですけれども，皆さん，マスコミ報道の中で教員が新聞に載ったり，テレビの画面に載るときに，いいことをしたときと悪いことをしたときとどっちが多いと思いますか。いいことをしたときのほうが多いように思う人？悪いことをしたときのほうが多いと思う人？断然そうですね。教員というのはそういう職です。いいことをしてもマスコミは取り上げてくれません。世間もそんなに大騒ぎしてくれません。あの先生の授業すばらしいね。あの先生の生徒指導すばらしいね，部活動とかで全国大会とかに毎年出て勝ってるという先生は別かもしれませんけれども，よっぽどのことがない限り，いいことで先生をマスコミが取り上げることは滅多にないです。でも悪いことではちょっとしたことでも取り上げられてしまいます。それは教員が教える職だからです。この教える職であることに求められる社会的責任，これが教員として非常に重たいということを是非わかっていただきたいと思います。いろんな職業に学生はつくわけですね。その中でも，教員は社会的に求められる責任が非常に重たいということです。皆さん，例えばマスコミに載った教員の記事とかニュースとかで何か覚えてることで，あ，こんなのがあったなというのは思い出せますか。どうですか。何かありますか？

〇〇　生徒を殴っちゃった。

〇〇　飲酒運転。

〇〇　いじめを見逃したとか。

倉本　ああ，見て見ぬふりをしたとかね。

〇〇　不謹慎なテストとかを出した。

倉本　そうですよね。人権を無視したようなテストの問題を出してしまったとか，そういうのもありました。

というように，いま聞いてもこれだけのことがあります。こういうの危ないなとか，こういうことは注意してほしいなと思うことが幾つかあります。交通事故に対しての罰則も非常に厳しいです。教員については，刑事的な責任は社会一般全部同じなんですけど，職としての責任を問われるので，刑事罰以外に，例えば神奈川県だったら神奈川県の教育委員会から職務上の処分を受けます。懲戒免職ですとか停職ですとか減給ですとか，そういう処分の規定というのがどこの県にもあって，それに準じて罰せられるということなんです。例えば，仲間と一緒にお酒を飲みに行って，あ，今日車で来てたんだと。誘われて行って飲まないつもりだったんだけど，ちょっと飲んじゃった。そしたらたまたま検問に会った。そして酒気帯びでキップを切られた。この教員はどんな処分を受けると思いますか。どうでしょう？

〇〇　免職。

倉本　その通りです。職を失います。免職です。基本的に飲酒運転，酒気帯び運転は事故を起こしても，検問で引っかかっても免職です。この社会的違反は厳しいです。なぜ？教える職だからです。飲酒運転というのはどういうものなのかを子どもたちに教えなきゃいけない立場じゃないですか。ルールを教えなきゃいけない立場じゃないですか。その方が酒気帯び運転をした，飲酒運転を

したということの責任が問われるのです。

皆さん，教育実習の際にも，生徒からいろいろ提出物集めますね。例えばテストの答案を集めますね。丸付けするのに職員室でやって，もう遅いから家に持ち帰ろうと持ち帰りをしますね。ちょっとコンビニに寄りました。かばんを車の中に置きました。そしたらそのかばんを盗難されました。テスト問題が入っていました。これはどんな処分でしょうか。これは個人情報の漏洩，紛失なんですよね。過失かどうかにもよりますが，これは免職にはなりません。基本的には減給ぐらいです。３ヶ月分とか。でも，故意とか意図的に自分が知り得た生徒の個人情報を漏らしたとなると免職です。免職または停職。この辺も結構厳しいでしょう？学校の職員の仕事ってたくさんの個人情報を扱うので，情報の扱いについては非常に慎重になってほしいです。本当に学校現場の中ではいろんな個人情報を扱うので，皆さん，実習に行ったときも十分注意していただけたらなと思います。

それ以外のわいせつ行為ですとか，そういうことは本当に情けないことなんですけど，年間に幾つも起こっちゃいますよね。なんで？と思うんですけど，出来心という感じなんですね。そのことをあんまり悪いと思ってないということなんです。例えば生徒とメールアドレスを交換した。メールの交換をして，最初は事務的なことをメールしてるとするじゃないですか。でもそれが例えば男の先生と女生徒，何度もメールしているうちに，ちょっとした気の弛みで，その子に「好きだよ。今度デートしようか」とメールしてしまう。これはもうセクハラなんですね。先生と生徒ですから。だからそれもそれだけで処分の対象になります。実際そこで，わいせつな内容の「エッチしよう」とか，そんなことを送っちゃうとそれだけで免職になります。そういうふうに教員に求められる責任というのは大変重いんだということを是非皆さんにご理解いただきたいと思います。もともと教える職にあることから生まれる責任だということを自覚していただいたら嬉しいです。

では３つ目，教員に求められる行動です。「あなたが授業で教科を教えている女子生徒に，インターネットの掲示板に自分の悪口を書き込まれちゃったんだ，どうしたらいいかな？と相談されました。さあ，あなたはどういうふうに行動しますか？」と採用試験で聞かれたら皆さんは何と答えるでしょうか。ちょっとメモしてみてください。「先生，私ね，困ってるんです」「なになに？どうしたの？」「インターネットの掲示板で私の悪口を書かれちゃって，ほんとむかつく。すっごく嫌なこと書かれた。私，援交なんかしてないのに援交してるって書かれた」そんなことを相談された。箇条書きとかでも結構です。あと３０秒ぐらいでいいですか。

（１分）

はい，じゃあやめてください。一番端。どんな答えを出しますか？

○○　直接，本人に言わなかったり，陰口だったり，そういうのを直接言えないということは恥ずかしいことだと，そういうことを教えます。

倉本　後ろの方，どうでしょう？

○○　書かれた子の話をしっかり聞いて，とりあえずその子のことが問題にならないように。

倉本　真剣に話を聞いてあげると。後ろの方。

○○　相談されたら，ネット上に載ってるものはその人以外も見れるので，まず自分でネット上のものを確認して，自分で削除できるものだったら削除して，（省略）。

倉本　ありがとうございます。皆さんが，もし採用試験でそういう質問をされたときに，今のように一生懸命答えていただくんですけど，実際，学校現場の中で，もしそういうことがあったときに心がけてほしいことは，まず子どもの話をじっくりしっかり聞いてあげることだと思います。だっ

て，さっき好きな先生の中に，話を聞いてくれる，同じ目線で一緒に悩んでくれる先生が皆さんにとって大切な先生だったじゃないですか。その子が先生を選んでくれたわけでしょう。いろんな先生がいる中で，教科を教えていると私，言ったでしょう？担任じゃないです。でも自分のところに来たんです。だからまず，この子はいろんな先生がいる中で私に話を聞いてほしいんだなということで，まずじっくり聞いてあげる。いろんなアドバイスをする前に，まず話を聞いて，悩みを聞いてあげる。それからいまもあったように，何らかの解決の手段を一緒に考えてあげることが大事だと思います。

ただ，もう一歩，教員に求められる行動ということで考えるなら，皆さんに是非やってほしいことは，自分１人で抱え込まない。その生徒の悩みをこの子は私を頼ってくれたんだから私が何とかしてあげなきゃ，と全部抱え込むのはダメです。なぜなら学校というところはチームで動くところだからです。皆さんは１人の教員ですが，君たち１人で子どもに向き合っているわけではありません。ですから，そういう悩みを他の先生にも報告して，みんなで知恵を出して何とかしようと考える。場合によっては担任にも相談する。報告する。そうして，チームで支援をする。チームみんなで何とかしようということを絶えず考えてください。そうしないと，皆さんが持て余した段階で，その子を救うことができなくなっちゃうと思うんですよ。１人の力って限界があるじゃないですか。そのときに，時間が経ち，いろんなことが悪化してから周りに相談するよりは，できるだけ早い段階で自分に情報が入ったこと，自分が相談されたことを多くの先生の中で共有して，いろんな解決策をみんなで考えていく。そしてできることをみんながやる。これがとても大事なことだと思います。

もし学校の中で解決ができなければ，これっていろんな機関に相談しなきゃいけません。そういうことまで考えられたらさらにすごいです。それは多分，皆さんが教員採用試験に受かったり，またはもしかしたら臨任として現場に出られることがあるかもしれません。そういう中で必ず必要になってくる，求められる行動だと思います。よろしいでしょうか。

では，４点目の教員に求められるトラブル対応能力。ある意味で３番と４番はとても似てるのかなという気もするんですけど，最近とみにいろんな学校でのトラブル，これは生徒と教員のトラブルもありますし，保護者と教員のトラブルもあります。一生懸命やっているんだけど，その先生方の努力というのがうまく子どもに伝わらなかったり，保護者の方に伝わらずに，いろいろなお叱りを受けたり，クレームを受けたり，そういうことが増えてきたと思います。そのことがマスコミとかでもかなり取り上げられてるんじゃないかなと思います。そのトラブルってどうして起きちゃうのか。そうならないうちに本当は解決できたら一番いいんですけど，でも起きちゃう。そういうとき，どうやって対応したらいいんだろう。この課題も，多分皆さんが教職についたら避けて通れないと思います。

あなたが担任している生徒，その生徒の保護者，お母さんから金曜日の夜６時ごろ，学校に電話がありました。クラスの中でうちの娘がいじめにあっている。どんないじめを受けたんだというのを滔々と話そうとする。娘はこんなことでいじめられた，こんなことをされたんです，誰ちゃんはそのときこういうふうにしたんです，ということを電話口で話し始めました。さあ，あなたはどうしますか？

（２分）

ではやめてください。では先ほどの次の方。どうでしょう？

〇〇　まずはその保護者のお話をよく聞いて，いじめにどうやって気づいたかというのを保護者

の方に聞いて，生徒から直接聞いたなら，その生徒がいじめを受けているというのを保護者に伝えたということだから，その生徒に話を聞く。もし教科書とかが破けてたとか，そういうことだったら保護者の話を聞きながら，その生徒にもさぐりを入れたりとかそういう感じで対応していきます。

倉本　なるほどね。ではその後ろの方どうですか？

○○　とりあえず親の言ってることは全部聞いて，事実確認を，例えば先生とか周りの人に聞いたりして，それが実際いじめなのか，遊びなのか，一方的かもしれないので，そういうことを確認して，それからまた親に連絡する。

倉本　どうですか？

○○　やっぱり親の話もしっかり聞くことも大事なんですけど，親のいないところで子どもにも話を第一に聞いたほうがいいかなと思いました。親が少し話を盛って電話をかけてくることもあると思ったので，本人からちゃんと直接聞くと。

倉本　はい。

○○　やっぱり話はちゃんとしっかり聞いて，さらにやっぱり別のところで本人からも事実を聞いた後に解決策とか考えていくべきかなと思います。

倉本　はい，ありがとうございます。その後ろの方，どうでしょうか。

○○　まず話を聞くのはもちろんで，それは大切な問題なのでちゃんと受け止めさせていただきますという話をした後で，大体特定の生徒というのがいると思うので，いじめた生徒もいると思うので，そういうのをまず教師間，教科担当とかで話をして「この２人どうですか」という話をした後に，学校が始まってから月曜日から「いじめられてるの？」と聞くのは多分おかしいと思うので，それとなく「最近悩みある？」という話をしたりとか，あとは下駄箱とか机の中とか机の上とかをチェックして，そういう傾向があるのかどうかというのを調べて，それから事実だったら親を呼んだりとか，そういうことをしていくと思います。

倉本　後ろの方，どうでしょう？

○○　電話ではしっかり話を聞くんですけど，やっぱり本人１人に事実確認もしたいと思うんですけど，いじめをされているという決めつけはしちゃいけないかなと。「何か相談事とかない？」と遠回りに聞きながら，あるかもしれないので，その子の様子をよく見ていこうかなと。

倉本　ありがとうございます。皆さん，本当にいいですね。みんな一生懸命，その電話をかけてきたお母さんの身になってあげようとしているじゃないですか。親が自分の子どものことで学校に電話をかけてくるって，人にもよるんですけど，まず最初結構ためらうんです。先生に言っちゃったことで，うちの子，余計いじめられちゃうかもしれないとか，先生の動き方によっては学校に行けなくなっちゃうかもしれないとか，いろんなことを考えてると思いませんか？でも，子どもの様子を見ていて，もう我慢できなくて，夕方の６時と言ったじゃないですか。もう遅い時間です。もしかしたら先生，帰ってるかもしれないのに，でもかけてきた。だから結構このお母さんは切羽詰まって困ってかけてきているのかもしれないと感じるじゃないですか。その相手のシチュエーションをまず理解してあげるということが大事なことです。どんな状況でかけてきているか。きっと家で，子どもとお母さんと話し合って「どうしようか，どうしようか，やっぱりかけよう。先生に聞いてもらおう。やっぱり担任の先生に言ったほうがいいよ」「言っちゃいやだ」と子どもは言って

るかもしれない。「でもお母さん，かける。かけるよ」というようなこともあるかもしれないじゃないですか。だからまずお母さんがどんな気持ちでどういうふうにかけてきているんだろうなというのを感じ取ってあげる，そういう心をまず持つことですよね。

もしかしたら金曜日の６時ですから，皆さん飲み会の予定が入ってるかもしれないじゃないですか。頭の隅にちらつくかもしれない。ああ，６時，やっべえ，７時からだよと。でもこの際，まずそれを消して，そのお母さんのことを真剣に考えてあげて，どのぐらい困ってお母さんがかけてきたんだろうという親身になって電話に出てあげることがまず大事です。そこのところでこっちの飲み会が気になって，あっちゃあ，こんな時間にかけてきちゃって．．．「はい，はい。ああ，そうですか。わかりました。じゃあ来週月曜日に本人のほうと僕，よく話してみますから。はい，わかりました」と切っちゃったところからトラブルが始まると思いません？お母さんとしては切羽詰まってかけてきて，金曜日ですから，次に土日入ります。来週月曜日です。切羽詰まって電話をかけたことに対して「わかりました。じゃあとにかくいまはお電話で伺って，あとは月曜日にかけますので，はい，どうも〜」なんてなっちゃったら「もうあの先生，私，信じられない」という話になりますね。それから子どもにいろんな話を聞いたとしますね。「お母さん，本人にも話を聞いたんですけど，もしかしたらこれはいじめじゃなくて，ふざけかもしれません」なんか言っちゃったら「もうこの先生は私たちのことをわかってくれない。どれだけ子どもが傷ついてるか，どれだけ私が悩んで電話したか全然わかってくれてない」から始まっちゃう。そうするとそれから先，一生懸命指導しようと思っても，そのことが全然伝わらなくなります。これがトラブルの元なんです。そのとき皆さんがやったように，まず一生懸命受け止めようという姿勢がそのトラブルを未然に防ぐ一番大事なことです。

電話で埒が開かないなと思ったら「じゃあ，お母さん，これから家庭訪問していいですか。本人もそこにいらっしゃいますか？」「います」「では本人にこれから先生が行ってもいいか確認してもらっていいですか」と。例えば。そうすると「ああ，本人も来ていいと言ってます」「じゃあこれから行きますから」というのと「ああ，来週の月曜日，本人に聞きます」というのでは違うでしょう。そういうふうに先生が飲み会を捨てても，そんなことわかりませんよ，先生方の気持ちなんて。よし，今日は飲み会，ちょっと遅れてもいいや。あいつらはきっと来るまで待ってくれるよ，みたいな感じで，まず行く。そうやって駆けつけてくれた先生がいろいろ聞いてくれて「わかりました」と言って，これはいろいろ難しいこともあるので，さっきも出てましたが，他の先生にもチームでと。これは前の質問にもかぶりますね。自分だけで受け止めないでチームでやろうと。他の先生にもいろいろ情報を仕入れてもらおうと。中学校だと教科によって生徒の対応が違う。先生によって違うことがあるじゃないですか。A先生の前ではいい子にしてても，B先生の前ではいじめてるかもしれない。自分だけでは見つけられないかもしれません。そのとき「いろんな先生にも聞いていきますからね。一緒にやっていきましょうね」いろいろ調べていったときに，これは本当にいじめなのかな。この子の思い過ごしなのかなと。いろんなことが出てきますね。そして次の対応が始まるんですね。でも最初の取っかかり，そういう電話を受けたときの最初の対応，ここに誠意があるかどうかということがそのトラブルを未然に防いだり，解決する基になるのではないかなと私は思います。そういう気持ちを持った，心のこもった対応を是非してほしいと思います。

時間もなくなってきたので最後，教員をやり続けるパワーの源について。皆さん，教員を目指していらっしゃるんだけど，私はよく教員とスポーツ選手って似てるなと思います。例えば野球で，

今年３割を打ったバッターが来年３割打てるかわからないじゃないですか。その選手はその年，いま目の前にいるピッチャーの球を打てるかどうかの勝負です。去年どんなにいい教育をしても，何十年もすばらしい先生だと言われていても，いま目の前にいる子どものニーズに応えられなかったり，子どもの教育に無力であったら，それはその年のシーズンとしてはダメだねと。似てませんか？過去の実績では勝負できません。いまです。いま目の前にいる子ども，生徒のために自分が役に立っている，その子の教育に力になっている。それが教員の値打ちでしょう？そう思うんです。

実は私が新採用の教員のときに，ちょうど１９８０年に採用されたんですが，そのころって，世の中は校内暴力がすごかったんですね。入った学校が途中からガラッと荒れた学校に変わるのを目の当たりにして，そういう中でワーッと熱血教師で生徒に関わっていました。そんなときにあるベテランの先生が「昔の子どもは良かった」って職員室で話すんですよ。昔の子どもはこうだった，ああだった。でもいまのあいつらはそうじゃないんだと。昔の子どもの話を職員室でしても，彼らは救われないじゃないか。いまのあの子たちに私は何をしなければいけないのか，僕らは何をしなきゃいけないのか，それをみんなで語り合わなきゃいけないんじゃないかと私は思いました。だからそのときに，ベテランと言われる年齢になっても，そういうことだけは言わない教員になりたいと心に決めました。

いま私は校長をやってますが，校長だって教員なんです。子どもたちとの関わりがあるわけじゃないですか。先生方のチームのリーダーじゃないですか。私は自分の学校のことをチーム大野と呼んでいます。私の全校集会の挨拶とか始業式の挨拶とかでは必ずその話をします。卒業式の挨拶でもその話をします。「君たちが大人になって中学校のことを振り返って，校長の名前なんて忘れてもいいけど，校長がチーム大野と言ってたことだけは覚えていてね。」と卒業式の挨拶をします。「世の中で，人間は猿の仲間ですから，１人では生きていけない。どんな社会のどんな仕事をやるにしてもチームをつくってやる。そのチームをつくれるということを中学校で是非学んでほしい。だから先生方もチームで君たちとやっていく。中学校で言えば，生徒が選手ね。君たちが選手。だから君たちが主役。だけど，選手だけでいいチームってできませんよね。さあ，何が必要ですか。いいスタッフが必要じゃないですか。先生はコーチでしょう。養護教諭はトレーナーでしょう。グランドキーパーもいるでしょう。マネージャーもいるでしょう。そういう人たちがスタッフでしょう。校長先生は当然監督さん。それからサポーターがいるでしょう。保護者や地域の方々。それでチームを組む。そのチームの中で君たちは自分たちもいいチームになろうとすることでチームを作る力を養っていく。これがチーム大野の目標だ」という話をしています。

そんなチームの中で教員がやらなければいけないことは，子どもたちに絶えず影響力を与え続けること。だから絶えず自分を磨いて，自分自身が伸びようとすることを忘れないでほしいなと思います。さっきも言ったようにトラブル対応とかいろんなこともあるし，子どもたちもいろんな子がいるので，４年生の方もいらっしゃるということなんですけど，教育実習のときなんかもきついこと言われたりすることもあったんじゃないかなと思います。すごくなついてくる子，温かい言葉をかけてくれる子も勿論いますが，「先生，授業わかんない，何を言ってるのかわかんない」とか，それこそ「先生，顔こわーい」と言われたり「くらーい」とか，もうひどいこと言うんです。でもそのことで負けない心も必要だと思います。皆さんがそういうパワーを持ってないと，教員って続けられないんですけど，その源って何かなと思うと，実は生徒からの何気ない評価，何気ない言葉，態度，そういうものの積み重ね，それは保護者の場合もあります。それが自分の中の自信になるんです。その自信が拠り所だと思います。さっきスポーツ選手と似てるねと言いましたが，やっぱり

自信をなくしたときのスポーツ選手は成績が下がるじゃないですか。打てないと思って打つとバットに当たらない。でもいけると思って打てばヒットになっちゃう。その自信が皆さんのパワーになるんだろうと思うんです。

教育実習はその第一歩だろうなと思います。教育実習をやって，もう先生は嫌だと思う人もいるでしょう。でも教育実習をやって，絶対先生になりたいと思う人もいると思うんです。絶対になりたいと言った人は，その教育実習のときに生徒から何かパワーをもらうんです。そして自分の中に自信が芽生えるんです。だから実習が大事だと思うんです。

これは，１９７９年に私が教育実習に行ったときのノートです。これはずっと私の机の本棚の所にこうやって，教育実習が終わったときから校長になっても，いままでずっとそこにあります。だから見たいときに出して見てます。教員になって最初の１，２年はこれをよく見ました。実はこの中に私をいまでも励ましてくれる言葉が書いてあるんです。実習ノートの中に担当の先生が書いてくれたコメント，それから生徒とのやり取りで生徒が私に言ってくれた言葉を私はこの中に書いていて，その言葉は私が教員を続けていく上でのパワーの源になってます。担当教官の方は，このコメントを書いてくれる際，「先生はいいものを持っている。いい教員になるよ」と書いてくれました。「だから私は厳しいことも言うよ。」と書いてくれたんです。先生はいいものを持っている。きっといい先生になるよ。これはパワーなんです。そうか。俺っていいもの持ってるのか。実習では失敗ばっかりしてるんですよ。でもそういうふうに書いてある。

それからもう１つ，これは実習が終わったときに控室にそのクラスのある生徒が来て，僕に話をしてくれて，その子が言ってくれた言葉をここに書いてます。「教育実習の最後に泣きながら挨拶した先生はたくさんいるけど，先生が挨拶したときに生徒が泣いたのは先生だけだよ。必ず先生になってくれよな」と言ってくれました。そのことを書いてあります。これは私の宝物です。わかりますか？３０数年経っても僕がこれを大事にするわけ。そういうものの積み重ねです。

この中に，じゃあ自分はどんなこと書いたのかなと，最後にそれを読みますね。「本当に生徒を愛し，教育に情熱を傾けているなら，教師の仕事に際限がない。しかし大変だけど，それだけにやりがいのある仕事である。この仕事に打ち込んでみたいと思える魅力のある仕事だと思う。自分にもできるというかすかな自信をこの実習でつかむことができてとても嬉しかった。教科指導においては２週間の実習だけではまだまだ基本すら身につけることができなかったという状態で非常に反省している。しかし自分の授業の長所と短所とは見つけることができた。これからはここでつかんだ長所をより一層伸ばし，短所には絶えず気をつけて自分の個性を生かした授業をしていきたいと思っている。やはり生徒にとっては授業のわかりやすい先生であることが一番大切な要素であるから教科指導についてはこれからも絶えず努力していきたい。細かいことを考えれば失敗ばかりの実習であったけれど，自分にとってはすべてが勉強になったし，教師への意欲をかき立てられた２週間だった。この経験を生かして立派な教師になれるように努力していきたい」と終わってます。さっき私が言った，皆さんの中の長所と短所。さっき言ったことを僕は実習のときに感じたんです。みんなの中に必ず長所と短所がある。私の中にも長所と短所がある。そのことをしっかり自覚して，それで自分の良さを磨き，短所を抑制できるようにして，そして少しずつ子どもたちや保護者の皆さんからのいろんな言葉や態度をパワーにして，皆さんが良い先生になってくれることを心から願っています。

今日のこの講義が少しでもその役に立ってくれたら嬉しいです。どうもありがとうございました。

－　終了　－

2011年10月28日（金）講演会